

附属特別支援学校だより（5月号）

にっこり笑顔

発行：校長 菅 昌徳



<入学式から1か月>

4月12日に児童生徒がそろい、スタートした1学期も5月の中旬となりそれぞれの学部で友達や先輩といろいろな学習が本格的に進んでいます。学級での授業やグループでの授業などの学習場面を覗いてみると、黒板の前で話をする先生の顔をじっと見つめる姿や先生と楽しく話をしながら意欲満々に学習する姿に子どもたちの環境になじむ早さに驚きを感じます。

5月の連休を終え、本格的に始まった運動会の練習においても、新入生たちが、在校生と共にかけっこや徒競走、ダンスに団体競技と各学部で考えられた学習内容に対し、自分なりの力を発揮し、笑顔いっぱいにあきらめることなく一つ一つを真剣に取り組む姿が輝いています。1か月は30日、学校で学習する時間は約120時間です。この時間が長いのか短いのか、個々に感じ方は違いますが、日々の学校生活の積み重ねが自信となり、笑顔につながっているのだと感じました。

子供たちが笑顔を見せる背景には、本校教職員の児童生徒に対する深い思いや願い、芽生えを大切に「共育」の精神が学校全体にしっかりと浸透しているからなのだと感銘しました。笑顔あふれる学校になるようにという思いで、今年度の表題を「にっこり笑顔」にしましたが、改めて笑顔を引き出すためには、しっかりとした理念を持ち、具体的に手立てを工夫して子供たちと寄り添い、向かい合っていく必要があると感じました。

児童生徒が、「行ってきます」と笑顔いっぱい元気な声で家を出て、学校で過ごすことが楽しいと思えるような学校にしていきたいとの思いが一層高まりました。

最後に、尊敬する先生のお言葉をお借りして

「先生方の笑顔は子どもたちの笑顔につながり、

子どもたちの笑顔は、先生方の笑顔を生み出します」

子供たちの笑顔が輝くよう、私たち教師が日々の指導の中で、子供たちの学習に向かう姿に対して、笑顔を決やすことなく目を向けていきたいと思えます。